

《2010年第3回建築士と考える住まいスクール》  
『阪神間の名建築と紅葉の里山を巡る建築たうんウォッチング』

暖かい日差しが晩秋のすがすがしさを呼び起こし、まさに遠足日和という平成22年11月27日（土）『阪神間の名建築と紅葉の里山を巡る建築たうんウォッチング』を開催しました。参加者は総勢50名。（社）兵庫県建築士会神戸支部情報企画委員会の7名が案内人をつとめました。

9時30分にJR摂津本山駅をバスで出発し、10分足らずで深江文化村へ。ここは、大正13年から昭和初期に造られた“文化村”で、当初約2500坪の開発敷地の中央に400坪ほどの中庭が設けられ、それに面して洋風の住宅郡が配置されていました。現在は当時と比べると様相は変わってしまいましたが、今なおその一画はゆったりとした雰囲気醸し出しています。現存する住宅の1つである富永邸（非公開）を見学させていただいたのですが、期待通り、まさに築90年の風格と気持ちのよさを兼ね備えたお宅でした。住まい手が“家”をこよなく愛し、住まうことを楽しんでいらっしやる様子がストレートに伝わってきて感動しました。笑顔で私たちを迎えてくださり、住まいの工夫や思いを話していただきました富永様には心から感謝します。



深江文化村「富永邸」

その後、芦屋の『旧山邑邸（現ヨドコウ迎賓館）』に向かいました。大正5年頃ライトが山邑氏から依頼されて基本設計をしたにもかかわらず、帝国ホテル建設上のトラブルからアメリカへ帰国したため実施設計を担当したのはライトに師事した遠藤新と南信だったそうです。山邑氏は別荘としてこの建物を建てたそうですが、思いのほか湿気が多かったそうで、あまり使わなかったのです。ああ、もったいないと思わずつぶやいてしまいました。やわらかい大谷石をふんだんに使い、細部にまでデザインを施し、なかなか重厚な趣のある建物でした。ここは一般公開されているのでまだ見学されていない方はぜひ行かれるといいと思います。



ライトが基本設計した「旧山邑邸」

次に西宮の『ギャラリー小さい芽』と『浦邸』へ。

ギャラリー小さい芽は震災後の安藤忠雄設計のギャラリーです。地域の方が元気になるようにとの施主の思いで造られたものだそうです。小品ながら内外にわたる明解な空間構成に、皆さんの関心が集まっていました。



「ギャラリー小さい芽」

浦邸（非公開）は吉阪隆正設計の住宅で、1954年に設計が開始されたそうです。

同時期に建築された吉阪隆正の自邸は年を追うごとに手が加えられ変化し続けたそうですが、この浦邸は建設当時から姿を変えず、今も元気に住まい手の生活を豊かなものにしてています。ピロティーのコンクリート床に線画が描かれており、これがとても表情があって楽しいものでした。ちょっとした工夫ですね。



「浦邸」右下写真がピロティー床

移動時間が短いということで午前中に4軒もの素晴らしい建物の見学ができ、参加者の顔は満足げでした。



そろそろお腹も空いてきたところで一路昼食会場の北山緑化植物園に向かいました。

「お弁当タイムで～す。」

ぽかぽかとした日差しが心地よく、お庭でお弁当をほおばりながらおしゃべりをしていたら、あっという間に時間が過ぎてしまいました。



紅葉たけなわの植物園で和やかな昼食タイム

午後からは船坂へ足を伸ばすことに。

古材屋さんが解体を依頼された茅葺古民家を、武庫川女子大の学生たちが中心になって再生しているという現場を見学させていただきました。3人の学生さんが再生にかける思いや学びを情熱的に話してくれ、参加者はユニークな取り組みに熱心に耳を傾けました。古くなることで強度を増す木材。つぶしてしまうとそれまでだが生き返らせると豊かな空間になる。再生を自分たちで手がける若者集団に力強さを感じました。



茅葺古民家再生現場にて





その後、今年廃校になった木造の船坂小学校へ。  
こじんまりとした木造校舎にはなぜかほっとする温かさが感じられました  
廃校は残念ですが、これからも地域の活動の場として寄与し続けるでしょう。



「船坂小学校」

そろそろ日暮れに近づこうかという16時すぎに最後の見学先である六甲枝垂れ展望台に到着しました。三分一博志作の自然体感型として造られた展望台で、山の上に立つ一本の大きな樹をイメージして造られたのだそうです。ガラス張りの展望室に入るとヒノキのにおいがプーンとしますがしく、とてもいい気持ちでした。

出来立ての展望台です。ぜひ皆さんも冬に足を運んで見られてはいかがでしょうか。“風と空の展望所”で座って空から落ちてくる雪を体感するのもなかなかおつなものだと思いますよ。



「自然体感展望台 六甲枝垂れ」

充実した1日を終え最終解散場所のJR六甲道に着いたときには気持ちのよい疲労感を覚えました。